
冬の朝

seiIO

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬の朝

【Nコード】

N6146D

【作者名】

seilO

【あらすじ】

お母さんと私。寒い朝のデジャブ。

キンキンに冷えた冬の朝は、空が限りなく透明で、まるで水の中にいるような清々しさで。

お母さんのお腹の中で守られていた時の景色は、羊水越しの景色は、もしかしたらこのくらい幻想的で、尊厳なものだったのだろうかとか考えてしまう。

昨日お母さんと喧嘩した。理由は早過ぎる門限のこと。高校生にもなって、門限8時はないよ。

昨日は友達の誕生日で、帰宅が9時近くになってしまった。これでもみんなを残して早抜けしてきたのに、玄関で靴を脱ぐ間もなくカミナリ。

確かに連絡なしで8時を過ぎたのは悪かったけど、連絡したとしても、絶対8時までには帰って来なさいって言うに決まってる。

「もう子供じゃないんだから！」

「じゃあ勝手にしなさい！」

最後はお互いお決まりのこの台詞。

昨日は晩御飯も食べずに部屋に籠ったからお腹空いたな。

コンコン…

部屋をノックする音と共にドアが開いた。

「あら、起きてたの？朝ごはん出来てるから顔洗っておいで」

窓際に立つ私を不思議そうに眺めてから、お母さんはドアを閉めた。

そういえばお母さんの朝は、いつも変わらないんだな。

何度喧嘩しても、朝になるといつも通りの顔で、いつも通り朝ごはんを用意してくれる。

弟と喧嘩しても、お父さんと喧嘩しても、朝のお母さんはいつも通りだし。 いや、もしかしたら、変わらないの？

だって、お母さんが朝から家事放棄なんてしたら、家の中がまわらなくなる。

長女の私は、ろくに家事を手伝ったこともないから、何も出来ないし、弟やお父さんだって何か出来るわけもないし。

どんなに腹が立つても、悲しくても、寂しくても、お母さんの朝は、いつもと同じでなきゃいけないんだ。

……………。

私は顔を洗ってリビングに向かった。

「…おはよう」

「おはよう。早くご飯食べないと遅刻するよ」

お母さんは私の顔を見ると、バタバタとキッチンに戻った。

「…、お母さん、昨日はごめん。ちゃんと門限守るようにするね」

おみそ汁を手に戻ってきたお母さんが、呆気にとられたような顔で私を見た。

そしてすぐいつもの笑顔になって、おみそ汁を私に差し出した。

「お母さんも言い過ぎたね。…次から遅れる時は、連絡だけはちょうだいね。…たまになら目をつぶるわ」

そう言って下手なウィンクをしたお母さんは、またバタバタとキッチンに戻って行った。

「いつてきます!」

「いつてらっしゃい!」

いつも通りのお母さんの笑顔に見送られ、家を出る。

一段と寒い今日の朝。

空を見上げればいつそう透明に晴れている。

この空、見た事ある気がする。

お母さんのお腹の中だったかな。

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6146d/>

冬の朝

2011年1月27日12時08分発行